

INFO 1

クリスマスケーキのご案内

秋も深まり、だんだんとクリスマスの時期に近づいてまいりました！
Ruelleでは今年も様々なサイズ・種類のデコレーションケーキをご用意しております。一番人気の苺をたっぷり使用した「生クリームデコレーションケーキ」をはじめ、今年の新作は、濃厚なピスタチオに甘酸っぱいフランボワーズを合わせた「ピスタチオフランボワーズ」や、少しビターなチョコレートに酸味の強いカシスを合わせた「ショコラカシス」となっております。クリスマスにはぜひ、Ruelleのケーキで楽しいひと時をお過ごし下さい。
ご予約は店舗へお電話いただくか、QRコードからお願いいたします。
また、焼き菓子は商品が増え、昨年よりも充実した内容となっております。年末年始のご挨拶に日頃の感謝を込めて、Ruelleの焼き菓子を送りませんか？たくさんのご予約、ご注文お待ちしております。



◀ケーキのご予約はこちらから

INFO 2

ぺこぺこのはたけ 秋の味覚を贅沢にお楽しみいただける 今月の小鉢御膳

読書の秋、スポーツの秋、芸術の秋など、秋を表す言葉はいくつもありますが、「食欲の秋」という言葉がある通り、秋は食べ物をおいしくいただける季節です。
ぺこぺこのはたけでも栗やさつまいものポタージュ、きのこのファルシ（フランス語で『詰め物料理』のこと）、そして旬なお野菜やお魚を使った身も心も温まるかぶら蒸しや白味噌の炊き合わせなど、秋の味覚を存分にお楽しみいただけるお料理を皆様にご提供させていただいております。
この季節だからこそお楽しみいただける、今月の小鉢御膳をぜひともお召し上がりください！



前菜
木の子ファルシ

ぺこぺこのはたけ
TEL0133-27-6440

INFO 3

北海道の米と汁 U-gohan 東大正門 丼弁当のバリエーションが増えました！

当店では、定番の「ザンギ弁当」の他に、「日替わり弁当」やメインが2種類入ったお得な限定「U-gohan弁当」などを販売しておりますが、その他に丼弁当も充実しています。
野布瀬農園のお米が250gも入った丼弁当ですが、「お米が美味しいから」とどのお客様も喜んで買ってください。特に、男子学生さんからは肉厚の「豚丼」が、女性職員さんからは野菜もたっぷり入った「ビビンバ丼」が好評で、さらに大盛にしていけるお客様がいっぱいあるほどです！その他にも、キーマカレー丼やそぼろ丼、照り焼き丼や麻婆豆腐丼などもあり、どれも人気商品になっています。



Donation 寄付について

ゆうゆうの活動にご支援をお願いします

●社会福祉法人への寄付について

- 1 個人の場合
所得税の寄付金控除または税額控除が受けられます。
- 2 法人の場合
一般の寄付金とは別枠で、法人税法上の損金算入ができます。
- 3 相続による寄付の場合
租税特別措置法により相続税が非課税となることがありますのでご相談ください。
※個人で適用を受けるためには確定申告が必要です。

税額控除対象法人の決定について

この度、皆さまから頂いた多大なるご厚志のお陰で、2022年度より税額控除法人となりました。今後も変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

領収書について

寄付金控除を受けるには、「寄付金」の但し書きのある領収書が必要です。当法人発行の領収書をご希望の方は、お電話又はWEBお問い合わせフォームからご依頼ください。

TEL:0133-22-2896
<https://yu-yu.or.jp/contact/>



YOU YOU MAGAZINE

ゆうゆうマガジン



苫小牧市東開文化交流サロン



「苫小牧市東開文化交流サロン」は地域の皆さんをはじめとする沢山の方々に応援いただき、12月1日オープンの運びとなりました。

この間、4名のゲストをお招きしての地域懇談会「サロンづくりサロン」を開催しました。

第1回「人との交流がちょっとずつ社会を良くしていく」では、愛知県長久手市地域共生推進監(厚生労働省より出向中)の國信綾希さんを、第2回「皆でつくる、これからのまちの図書館」では、ブックコーディネーターで「本」を軸に全国各地で事業を展開している内沼晋太郎さんを講師としてお招きしました。第3回は、大阪市、尼崎市で子どもの居場所支援や子どもの相談支援に取り組んでいる能島裕介さん、枡谷礼路さんより「子どもが大切にされるまち」について、子どもが生き生きとしているまちづくりのリアルを講話いただきました。会場には現役子育て世代もお子さんと一緒に参加しており、あたたかな雰囲気のなか進行していきました。現在の子どもの置かれている状況は過去のそれとは大きく違い、社会構造から生きにくさを抱えている子どもが多く存在していることを念頭に、すべての子ども達がすくすくと成長していくために出来ることは何かワークショップを行いました。各テーブルとも真剣な語らいが弾み、市の職員も含めた参加者が耳を傾け強く頷く姿が見られました。



また、「地域の担い手づくり研修会」も併せて実施しています。今後サロンを作っていくのはサロンに来る一人一人。どんなことがみんなと出来るのか各回でテーマに沿って語り合っています。ある参加者はお年寄の得意なことを教えてもらうことで子ども達の顔がぱあっと明るくなった体験を通し、沢山の知識の宝を持っている高齢者と出会う機会も貴重だと話していました。



オープンに向けてこれまで支えてくださった苫小牧の皆さんや新たに出会う皆さんと共に、「あほしい」「こうしたい」「こんなこと出来るよ」と語り合いながら苫小牧東開文化交流サロンを作っていきます。



実りの秋 野布瀬農園の新米・森からの「いただきもの」

たわわに実った黄金色の稲穂。野布瀬農園では、10月初旬に50名程集まって稲刈り体験を行いました。子どもたちが中心になって稲の束をしっかりとつかんで、ゴシゴシと鎌を引くように刈り取ります。「稲は刈っても、手は刈るなよ」と地域のおじさんのアドバイスもあり、刈り取った稲は稲架(はざ)掛けにしました。そして、みんなでにぎった新米。まあるいおにぎりをほおばりながら、「来年もやりたい」とおしゃべりもはざんできました。



11月上旬の寒さの厳しい日。野布瀬の森では40名程集まって、たき火を囲んでパンやお芋を焼きました。まずは、みんなで白樺の皮や枝を集めて…火をつけて暖まります。出発前は「さむいさむい!」と言っていた子どもたちや大人たちもパチパチと燃える枝とあたたかい料理でいつの間にか心も身体もポカポカに。野布瀬の森では森が身近に感じられる体験を今後も続けていきます。



令和4年度産の色つやのよい新米の準備ができました。全国の皆様にお届けできるよう今年もインターネット販売も行っております。準備出来しだい随時お届けいたします。詳しくはQRコードよりサイト内でご注文下さい。

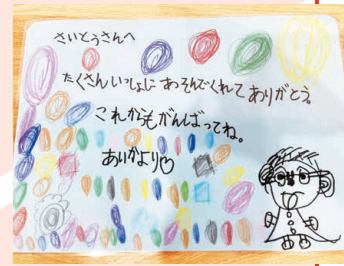
新米の販売はこちらから



学びと成長の秋

社会福祉士取得を目指す大学生が約1カ月間にわたりkaedeで実習を行いました。期間中はたくさんのお子さんと触れ合い、社会福祉士に必要な知識・技能習得のために経験を積みました。今回の実習を通じて学生の学びはもちろん、kaedeのお子さんにとっても出会いと別れを通した成長の機会となりました。

ゆうゆうの実践がこれからの福祉を担う人材に届き、仕事に魅力を感じてもらえるよう、今後も真摯にお子さんと向き合っていきたいと思います。



10月上旬、amaririsuは未就学の子どものためのイベントを初めて実施しました。当別町太美町にある「あいあい公園」に遊びに行きました。気持ちのいい秋晴れの日で、ブランコやアスレチック、滑り台、砂場遊びなどを元気いっぱい楽しみました。たくさん体を動かした後は、公園のベンチでお弁当を食べました。普段は利用時間が別々で一緒に遊ぶことがなかったお友だちとも、名前を呼びあって一緒に遊んだり、年長のお友だちが帰りの支度の声かけをしたりと、交流を深められたイベントでした。

組織マネジメントの構築とリアルタイムフィードバックの導入

当別町及び江別市を中心に事業を展開して20年もの時間が経過しました。

20年という時間は、利用者の方々の状態も、暮らしの背景も、ニーズも変化していくのと同じように、職員のそれらもまた変化していきました。

結婚・出産や親の介護によって働き方を変える職員や、福祉以外の専門的な力を持って福祉の現場に飛び込む職員が増え、職員もまた多岐に渡る状態で働いています。そのような中、これから先も様々な状況にある職員が増えようとも、「ひとりのニーズ」に持続的に応える組織であるために「ゆうゆうで働いて良かったと実感できる組織マネジメントの構築」を法人の中期ビジョンに掲げ、推進しているところです。

具体的に今年度は、担当事業のサービス管理だけに留まらない経営及び運営の一部委譲と管理者の育成、職員のリアルタイムフィードバックの導入です。「リアルタイムフィードバック」とは、職員間のコミュニケーションの促進や個々人のキャリアパス支援をするための月1回の面談の機会です。いずれも今までなかった訳ではないものの、法人の中期ビジョンに掲げ、丁寧に組織マネジメントの構築とは何なのかを言葉にして共有し、職員が一丸となって「働いて良かった」を創出していくプロジェクトとして取り組んでいます。



品川事業の終了のお知らせとその軌跡

平成29年度から取り組んできた品川事業が令和4年9月末で終了いたしました。品川事業は、ゆうゆうが北海道外で展開した初めての事業であり、ゆうゆうを含め4つの法人がそれぞれの強みを活かして協働運営する全国的にも画期的なプロジェクトでした。令和元年10月には、障害と食・芸術・医療のコラボをコンセプトに設計段階から作り上げた「品川区立障害児者総合支援施設」が開所しました。ゆうゆうは「品川区立品川児童学園」の運営に関わり、高品質な療育の提供のほか相談窓口の機能強化(発達評価の質の向上や児童精神科医による医療相談、ソーシャルワーク等)、保育所・学校等への積極的なアウトリーチ、自立支援協議会子ども支援部会の活性化とネットワークづくり、地域力を高める研修の企画・実施、大学生を積極的に雇用しリアルな実践教育の場の提供など、ゆうゆうらしさが光る事業展開ができたことと自負しています。子どもたちの笑顔に包まれ、保護者の方々と共に泣き笑った5年半はゆうゆうにとっても大きな財産となりました。最後に、毎日元気に通ってきてくれた子どもたちとそれを支えてくれた家族、地域の方々、品川区を始め関係機関に心から感謝します。本当にありがとうございました。

令和4年9月30日
品川事業部 部長 光真坊浩史

